

# 笛吹市探訪

第59回

## 笛吹市の史跡 ⑱ 笛吹市の石造物

私たちは、普段道端の石造物にゆっくり目をとめることはなかなかありませんが、今回は市内の石造物を紹介しますので、散歩の際などに立ち寄ってみてください。

石造物とは、人々が岩石を加工して、何かの記念や祈願のため、また目印として、道端や土地の一画、塚上などに置いたものです。石造物には、定型に彫ったものや自然のままのもの、一部を加工したものが、像にしたり文字や画が描かれたりしています。長さは数十センチから数メートル、重さや石の種類もまちまちです。

石造物というと、墓標(ぼひょう)、供養塔(くようとう)、道標(どうひょう)、道祖神(どうそじん)、庚申塔(こうしんとう)、石



能成寺跡の五輪塔と宝篋印塔(八代町北)

幢(せきどう)、地藏、馬頭観音(ばとうくわんおん)ばとうかんのん)、灯籠(とうろう)などをよく見かけます。どのようなものか、順に見ていきましょう。墓標は、遺体・遺骨を埋めた墓の目印のことですが、供養塔は、亡くな

った者に供えて冥福を祈るための石塔のことです。その一種として、

平安時代末

頃に立てられた五輪塔(ごりんとう)や鎌倉時代中頃に立てられた宝篋印塔(ほうきょういんとう)があります。

道祖神は、仕切りとして集落の境や道の分岐点などに設置されましたが、災難よけ、縁結びや夫婦和合の神でもありました。

庚申塔は、街道筋に道標を兼ねてよく置かれましたが、それは、干支の庚申(かのえさる)の申から猿田彦神が彫られ、その猿田彦神が道祖神としても信仰されていたためです。

石幢は、六角や八角の石柱の各面に梵字(ぼんじ)や地藏を彫ったもので、供養塔の一種です。

地藏は、子どもの守り神である「お地藏様」の石像です。「地」は大地、「蔵」は胎内の意味で、母なる大地のごとく命を育み、大きな慈悲で人々を苦悩から救う仏様です。六地藏は、仏教の世界が六つに分かれていて、それぞれの世界にいる地藏が迷った者を救



成就院にあるかわいらしい馬頭観世音像(石和町小石和)

うという11世紀頃に生まれた信仰に基づいてつくられました。

馬頭観音は、観音菩薩の化身の一つです。観音様は普通優しい顔をしています。馬頭観音は怒った表情をしています。元々は無知や煩惱など諸悪を蹴散らす菩薩でしたが、馬の守り神でもありました。江戸時代には物資や人を運ぶ馬が路上で急死することが増えたため、その供養のために馬頭観音が立てられました。

石灯籠は、元は仏教寺院の建物に付属するものですが、神仏への献灯として神社や寺にも立てられるようになり、桃山時代には茶室の庭に、江戸時代には個人の屋敷庭にも設置されるようになりました。

市内にはほかにも北斗七星や彗星を彫った星石(ほしいし)、仏足石(ぶつそくせき)、絵馬、庚申神殿など珍しい石造物があります。

春ののどかな一日、石造物を尋ねてゆつくり歩いてみませんか。



福光園寺毘沙門堂と灯籠(御坂町大野寺)